

日本生薬学会会員海外派遣助成事業 (B-2)
海外で開催される国際研究集会への参加 [成果報告書] (抜粋)

1. 派遣者

所属 京都薬科大学

職名 博士課程 2 年

氏名 深谷 匡

2. 研究集会名

(欧文名) The 9th CSP-KSP-JSP Joint Symposium on Pharmacognosy & 2016 Annual Academic Conference of Committee of TCM & Natural Medicine, Chinese Pharmaceutical Association

(訳文名) 第 9 回中韓日生薬学合同シンポジウム

3. 派遣期間

2016 年 5 月 28 日 ～ 2016 年 5 月 31 日 (4 日間)

4. 国際研究集会の概要とその成果 (併せて 600 字～800 字で記載下さい。)

(概要) 本シンポジウムは日本・中国・韓国の生薬学会の合同シンポジウムであり、本年においては 2016 年 5 月 29 日から 30 日にかけて中国・上海中医薬大学で行われた。本シンポジウムでは "Authenticity, Biology, Chemistry, and Development of traditional medicines" をテーマとして掲げており、生薬学および天然物化学研究における学術的な交流を推進することにより、メカニズムに裏打ちされた薬理活性のある化合物の発見や特に生薬などの伝統薬の資源活用などの観点から、日中韓 3 ヶ国のみならずアジア広域の生薬学の発展を広く願うことを目的としている。口頭発表 34 件ポスター発表 81 件と小規模ではあったが非常に和やかな雰囲気であった。

(成果) シンポジウム 2 日目に Plenary lectures, given by Young Scientists and Postgraduates のセッションにおいて Research of alkaloids with anti-melanogenesis effects from the leaves of *Murraya koenigii* の題目で口頭発表を行った。ミカン科植物オオバゲッキツのメタノール抽出エキスからのアルカロイド成分の単離及び構造解析、単離化合物においてマウス由来 B16 メラノーマ 4A5 細胞を用いたメラニン生成抑制作用について報告を行った。ディスカッションの際に、しっかり聞き取らなければならないというプレッシャーがあったが、質疑には適切な応対が出来たと思われる。また、今後の課題としてさらなる語学力向上の必要性が再認識できた。ポスター発表においても同様の内容で報告を行った。口頭発表とポスター発表の両方を経験することが出来、また、国際学会ならではの空気に触れることが出来た。さらに、発表後には、他の大学院生及び若手研究員の方々とディスカッションを交え海外の同世代研究者の雰囲気などを目の当たり、非常に有意義な時間を過ごした。これらの経験を今後の研究に活かしたいと考えている。

5. キーワード (本研究成果のキーワードを最大 6 つお書き下さい。)

① *Murraya koenigii*

② カレーリーフ

③ アルカロイド

④ メラニン

6. 本会からの助成に対する意見・希望等

今回このような貴重な機会を与えてくださった小城製薬株式会社及び生薬学会の先生方に厚く御礼申し上げます。